誹諧鑑 廿九編 上卷

(末)

へ 5
5666

門へ
號5566
卷

霞外文庫

聖代の下ふ住勤仕のいとまふ
を俳諧連句ふ心を向た祢自中
を吐露する句々千差万別あり
おのゝ作意を異にし新調を賞
す旧觸數編普く世ふ流き撰者
笑蓉散人の号を白つられてあり
刹者の机下ふ委句を乞夏隔年

さらに今廿九編を集め諸君子
の尊覽に備えて世道の栄えん
事を希而已

文政十巳丑の春　芙蓉散人

星運堂雪成誌

應需子中書

宗鼎座　治徳、　冬映側
江戸　平砂側　得器側
清友一列　正風一流鈍鳥
白蓮舎

一蔦井

茶三の器り
くらべるよし

黒部素粒

八丁堀地蔵橋
東の足下

上代の傍人あり　皆師料理
書くぬ家のヱレキテル歪　會あ腹
尚歯会大納言ても　年の始
傾城も小袖あり　ぬ世のうつ
旅送り記あるあり　今　切あり
箒めも掃さくの　蘭　絵り
弟子のまま家つさ月　落る　麁
皇は御　入るも　なりけり
笠石すぬ濡　仏さん　世を　厭ふ
正宗は銘あるぬも　安　大字
分師は試み足　ある　皿　遠り
法力流生済度の曼陀羅湯
杜氏さ人も　修　行る
それぞの名を　強　笠　法　下

自在庵

大門をくゝり
表助方門居

ひさしを新者
なり

仲千頃

引切なのの形造目ふし長なる
碑さめの俗名作まちく
窓風い金のまる木を吹枯し
彼さめてきろい表ひのふるいとし
いく彼う去尺またう行如原
蓮堀い珊瑚樹乳のきみもあり
肌色く黒川流尺　墨まつり
除欣沸く墨日の小紙まちつけ汁
幸彼の浮出木し　医こそ乃
ゑめ〜先上て京の出味方
ゑとりして蓮　茱の亀
風うい西めしちり頃　瞰
之日　係まの　酒示
太巻る二階を猪牙てちくひる

果報娘より鉾ゑくゑあて
引ま人の新造目あし魚ぐほあし
信る発気してゐる　白者
戸たりした借てがけるる当の门
不器用な奴を和尚のひそ寺
意見は今のする本を吹くし
見なも天窓てゆう早り出し
生酔の衛に名代やちくら
風俗は吉れしやちり修　嫁
吉日傷なる　鳴　原
大つやめて　徳　子　へル　つ
客るる二階を投そてんびる
ありを引て　福宝　仲人
嫁を若人　持し　菌　元
欅を　持て　ゑもる　喉　月
天文学る根との　よい言　寿

一　燕井

強弱交るべし
附液きずして
句作をとく
作意へ丁ある
前句な詰るの
事なし

燕　古梁

築地小田原丁
多留所

意気の引ひもます　山のくら
寄屋る二るで　家ても　好る店
性房は顔見の芸くしゆてまん
附き錦繍山ら　初錦経
物心は仏様ても　悟覚さ
較帝無限其町の　意は秋
出来る限心の　意は　藤ても
阿弥陀さん元生懺悔る向蔵
る贈くく小贈も　今は　六地蔵
天狗火を位有人もる　二童坊
法華う功力の意弘　石る書
極楽はらんあ　不光　読きまいら
生酔はどんぐりの　付合の辻子
誓文を掛て　ゑるのる　挺め

成仏をせぬ幽霊ゟ起し給ふ
先生ハ見て見ぬふりの大和枡
福禄の家の主公を見ん方塚
積子も附子ある手書ハ本店
大象ハ犢鼻褌の本店
綱紀の商人も添八
山屋ゟ宝蔵を見るハ河豚
子の形て経堂の霧乳
五ツ諸方の功ハしるてり前
添切功の積て吃る西切
爪て鼻毛のさもしやしさう
第ハ中まち多ある
仙人涼も能の脱売の君
車轍病む気仏上人
首骨ら若葉初手どんそりや
鞠ゟ?地までん選択子

自在庵

神歌の句ハ
古集の類の
句大くさよし
何よりも論
ましなき
佳作
見く附
きさらしきを
句ゟ宝とあり

かやば丁
茅場町極意うしろ

小西祗徳

酒ハ量なしと茶ゟ茶を始
むか家生毒の始ら祇と早
新一ツ火箸を入る事あづり
出茶園諸味噌をとゞめ事も手
火鉢の炭も神ゟ往来ゟ
代ゟも様くさ客相より杖の情
全泥の施線ハ旅のあしらひと
陽田の春ゟの卯まも郭の夢
ひとへてし小鍋を別て稀也御
大みなも出来ある迄れ医者の来れ
紙の面安居の眼ゟハ差合ても
称降ゟ半分よめぬ仕舞札
鞋ゑハ解て流ゟ後三年
もとハ附の続きゟらけて匕社の会

○ケイ世於

海ゑら別ゑして口上ゑ亞
秋骨岸中人ゑ法ゑ子八岡山
よゆめる冥加の新姫百石
桜 呑ちゑやおもひかゆ八
九十九扶めゑとゑゑ大金
ちゑ刀節ゑゑて拳ゑ望る
海法てゑゑゑ琴の法好
望ゑハむごの海文ひ下話
こゑ南ゑを仙人ゑ怪ゑ
望るゑ月ゑしたゑ法人
法ちゑゑさん芋ハゑゑゑ
二人ゑら二人ゑゑゑ法ても
法席れへ蕎千羽引霧
由井ゑ海りて天ゑ立波
神法ゑて古法ゑ言島
法磯ゑまゑゑ相ゑ義ても

一陽窓

前くゑ碧るゑゑ
あ一世八島を
尺金をゑゑ亞

谷　素塵

一万波繪る 乾坤 目 八分
只彼亞の古代 大 ゑゑ白うゑゑ
ゑ法金てゑて八英金 等くゑし
春亞ハゑゑ法ゑ各ゑり 西施乳
敗ゑ和ゑて 撰ゑさくれるゑゑ春
ゑみち海ゑゑゑゑ蕎ゑ海古
大名ゑも如ゑ蕎ゑ像ゑゑ 乾 自和
春の川ゑゑし ゑゑゑゑゑ 色
幻の巻ゑゑゑ 高 鳥
白い毛ゑゑ ゑゑ 十 雀
豆府亞ゑ蕎生先生ゑゑ 紀
元ゑゑひゑて井ゑゑ 海ゑゑ
白海ハ首ゑゑて 乾 英 波

吸酒を法仕立まり新造突
抜おしゐやとて姿る不器量
陸やん殿いる蹄射竹の及り
たく講のうきあんりめ容
胡紀好きも逗留めも種
竹てそくるは妻のと一
節を吹のハ医者りゆるさす
小尻を新ケなされる合
をこしてすくく本陣の妓
見りくおもふ百姓の危
不鞭ゆとて変為て紛
女もいすくく人の化ゆの
茶ま合ゆ物の腰無
無志のゆとての恋ひ殿の 紀矩
徳ハ孤ゆるす情りくく 知年
赤ゆとそとて歩りくる

合歡堂

自作付三句の
俳り文ありり
句作ならず
後の人まつる
べき

沽徳座　栗本宗佑

（ひつぎの法師たんすけ　甲子の年　指丁）

夢ものがたりにもあれば、あるべき顔の美しい方
は、うつくしかるべし。大和
河骨の花のように、名の通りの種
子を蒔き、今年、来る風
言葉、歌人の指てつめら紙
故郷の春さきを、笑ふ。歌鳥
三人の心、合て、赤子
樽、濁て、咲て、行たで移屋
一口の酒、ゆゑて、河、東京
松、ひ屋好の笑いぬ歌の来る
堤、湯、解て、言士、鳥の巻
法、大名の意、鳥の樹の出、来心
ちん、拍子、祝ちゆきます

秀句〻〻〻嵐の谷の日幸晴
挿竹魚を　さうす　紙小袖
医の上より手を　酒
男〻〻〻粧の情をふんてんろ
出海　物は重て不業知
桶ゑる露天井ゑ　縁　ゆ〻〻　空
明ケた心の　先事を解く
合吹の小屋の　接ゑ　むつゑ
むき湯をおて　美　しい　露
稼もあ門ち変身て　玉の　夢
双　い〻〻　出ても　垂て〻〻　ハ　祝
曼の　敷ハ　接ても　寄　自　場
屯　明の　ゑ〻〻　地の　定　流
夜　牡丹　雪　舟　〻〻　る　娘　あ　り
町　ぶ〻〻　歩　り　立　と　ゑ　る　舞
〻と　知て　踊　る　ゑ　ん　へ　面ゑ

梯平庵

つ〻〻まるすて
強花変ゑ〻
所紙ら〻〻
足出し〻〻る
言忘れ
二句めの哀
猫哀
江戸地名
大雪化の軍俳
世俗ことの句
より

省月枝

いづこ移ゑ〻〻
カリ　有梅表宮ゑ
ハ　組ゑ〻〻き内

茶〻〻〻〻僕　安　清　の　ゑ　女
ゑ〻〻の　ハ　清　ゑ　ゑ　清　い　嬉　茶
楽ら　れ　ハ　敢　雪　ま　た　ゑ　る　庭　吹
上　茶　辰　む　ら　ゑ　く　き　く　て　ほ　ゑ　く　き　ま　を
場　船　面　ま　ま　る　場　面　を　ま　た　ま
都　る　る　り　嬉　〻　ハ　河　茶　弟
茶　を　る　〻　〻　ゑ　の　下　竹
閑　ま　〻　〻　ゑ　ま　ま　ま　ま　ま
丸　の　月　ま　ま　十　粉　ま　ま　き　け　ハ　ウ　ら　茶
梯　月　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
例　刻　を　炊　し　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
猿　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

之おすも病狂義材の孫改
おうくうくあるを 屠の責 為
いうなるなるを汗と切广をと
石絡世と垢ふうう石家の根
ゆゆして伸を仕る之時牛男
五十リ多生ハ也い 八版
喜のやと多るさちつさ被らき
あてたるしまて殺急振しての
世の冥利ふうう仕拒 弧
男てたるの家 刑 別
うるしし絡宗しるハの浦
た ゆくくの点ハとうく仕
部 春て携経の所 好
為 危 極 の 冥 ゆ おうも 高 る
欲の世ふう経時き為ふるし
芒ら木乃伊 しとるもつ由又

白花坊

芝新堀中の橋
喜木稲荷の

太崎團雪

茅くくの香り
中一おかーく
言長あり

一名立茅 又名也住とうる 茅 林寺
大 罪丸の 厂 の 足 とり
一 すいト 元ハ 去 古くう
中 足くうくくの教年おる活 衣
能 死 の 亡者 を 忘 る
生 辭 の 反 ハ 也 所 の 毒 更 紗
金 き ま る 乳 き ひ 足 机
つくくふとくくの朱の後 如 おしあ
朝 日 乙 根 稲 る 抱 れ さ れ
京 門 ちくさ 池 帝 ち ハ 茅 ら 行 也
大 足 ら 布 帝 と 為 て 困 る 寺
牧 内 の 絡 と 清 ん て 竹 くれ
仏 中 ら ち ん 稲 の 尾 り 少 ら さ
魚 き ひ ち ち く 山 の 為 ふ り 句

天人ヶ岸まて困る居り中く
まい法る手み しる 笛吹
跡原子ひゆり 出ちらん安命
吹草位揃まあかし昆の腹
退ら川の天狗らうく松ろ鼻
おろしを笑らふ事も屁ハ、
ひよめきの形アる凹凸て玉子
伽羅と名まるふ牛のひりし五
菌気ハ玄様まう換をして
塩鯛の目昔の名ハさくら
皇屋をもり芳すの七変化
墨まる猿を嫌し小原女
尻ても捨ぬ除款の筆丸
天ま禄塊子白紙ふ浦生山
虎子巻る七賢人の喰余り
猩目今半まも迄し為し

新甫堂

三句の天切す一
あり二句の局
す人情しおう
しくあり
斧猿　孫意
仙左伴　慈
雪素田　亀
宇加美　雲上
枝鶴
海の句う
不用宅の附
そるし
笑ひ悦し
まりし承葉内

橘甲一丁め川岸
ともゑやの濤

省　子鷹

蒼島茶給子を考る人
次广智も天蚕絲無てや強さゆゑん
、さの八十木果の状条待り営
むか楼の黄金請て　請の家
、に方ハ便踏るりぬる子をいふ
故屋をたてゝ亀の姪の伽
、門を揮き飯をたき旅分
丑士号てられしるのも尺りゆ家だ
、餅をちあめふそく饒のかゝら
癪ぬけの鼠天井を言る場
、山奈橘くらんなとける宗
世写ら附ぬるゝ香し菜をも
、判隈も正午とありし果し怯
楊枝まぬけさ丈の三徳

これハ吉原の
傾城のよく大事
にするがよし
若旦那もしど
かしたる時に
使ふてあやま
りさせては
用心あるへし

、たとへ浮世ハ糟も喰るとも
縄緒を踏ゞ取くまぐされ日
、ひねり豪の男ハ笠ひも
傾城を買んと致士の旅衣
、荻様を捨て荻様へ名の香
あふない崖へひよろくる子
、黒仕立の入ハ白足袋
鯉屋て山椒を盗む大君子
、包み殿けて此様を追ふ
りつもとんびの足に直拭ひ
、きつ上の所ぞまる子の結び
気分も酔ふ膝の泡盛
、消男を鮫まして涼しい顔
、毎身に潮抱ふぬ八氣の涼も
鰹の真むの見ての耳たぼ

潤木菴

孫弱交る人し
附三日の波
嬉ひろし
若は菊の如し

巴公西金茶
みそやの服

省崑山

若耳に珠数備嵜切の本架摘
見られぬ善徳子程見らい孫
仕立屋ら被布の手紙を頼まれ
剃て目に文門親の綿耳
田作て付てゐ毎陰聡
桶辞の中の子の事るの年
誂下さて三月目山の外
表名指ても立をすし己ん
根に並んで日詳ちを出し
子の無いら一つの欠の大分眼
詫縦刈ら手橋く豹良
ふさきら天子ら新弓の剃骨
おてんだ娘凡出んかや話
助れて大事なる乙矢大架

栢婦人

子鷹月庵大業

[illegible]

[illegible]

有我坊

[illegible]

本町角木店長右衛門
中ノ丁内ゆて
室田弟三郎地面

省　俳外

[illegible]

正月菴

附游子の屋敷なるべし

栖隱

（此の谷天王橋甲）

省　且尾

昔且の屋人、紙を資産出す
是てもと毋と共供の庵下屑
山野なる紙家まとうる松 他
一作次の庵る一 南
雷り界て晴さ一り 雪
是らく寺さ小体の墓帝
火めうつり絶是て炭
傷室絶へ書入れの智 硯
鳥嘯りり出てけさの雲たり
互よ茶茶紙称こと称り紀測流
らりまつさ出りか々紙室
子供屋の窓の孫をたりさ至
りりり二人り 樂 次

後引をもりりりる畢丸
誰の拓頭畢出へ素を素松仙り
地子庵さ畢のかりりりの紙
病人弄仙の 義会の 牛
つき糸をもり屋人目の糸り 鶏
泊りりる来てもの宮てあぬ伯母
人心りりてる畢人 魂 苦有 徒
舌腸の仏多いいの門
日の夜も松新ふよ風ふる
多猶りりけりる士りりてる
西りりつ文ゆりりる陸りりぬ
坊師を高り汗り撫て拝く
山つく出りて繕を二夜渡し
いつくくくを心 中 の骨
ひりりつりりひりん多荘畢
の実りりりりりのりりの人

薩坂三里紅の赤らかし
ふ門付くさま子稲葉の棚火寺
妾の家精綾め惜くら川
おし菓子も茶湯と絶尾の竈の孔
雪隠も茶引して休まるひ
妾子のみて由るむ 禪す
桂川概く論けす 問おいを
聲不服ねそ入一も二もない
生ッ 事務へ 排子を戒る
七絃しおい深更会て約十韓
再與仰北青 妙の玄
一丸め給とみとい本郷系
本場を角から角へ黒船
隠れ家を建ても人ら隠させす
さて状を落て戻てくれしかる
男の歳光すいとあまおちよ

方堂冬映

冬映側

[illegible]

ところ丸

[illegible]

百立

仲人ら揃ふ花のもとにて酒宴ありし
萩蒔の玉結を稼ぎ出し　杏　懐
手の出い腐の瓜ハ寿つけぬ
百方つけて行つける業ありし
信人今ハ徒ふ拝くを困るハ稼の内
萩ハ徒ふあるのを萩ハ孤ら修
花抱ふハ苗　窓　子　裸　蓮
子を暴うを稼ぎて拝
古今の稼ら咲　寄る　蕎
出　所　の上ハ色もいの方夜　秩
壱の中ら車さく　法
二方といふ法の盆重作
下のるまの帝出　窓　用
目　丹　拝ハ　寺の蕎　元
双帝ハ方て　七夕

一巣菴

一俳和ら手
方ら三方の
酒ら来ら
ら方ら
茶ら方歌茶
歌手ら方ら
を拝手茶ハ好ら
石ハ　茶の花
麦　葉つき
ぢたご　南天
石蕨の花　柳
祇の田植　冨士
蕎　猿　花

牛蒡から早

桑舎蚕二

あら花ハめて
芦原の
小豆粥
茶の花子油杜氏ら
八十銭
出平手
配る
有方
蚕油ら一本
京掛て
上月ハ
掛ら
足ら
今沢

結 二番の句よし
実情 ※
燈花の句よし
去停 [illegible]
武術の句
弓の句ハ[illegible]
しき方よし
世語[illegible]おとし
み
めで度る
し

[illegible]

笠庵

三句のうち
いつれ[illegible]
去停 [illegible]
[illegible]
[illegible]
さる句よし
[illegible]
[illegible]
[illegible]のおゝを
孝心の句
武停
[illegible]
[illegible]

牧 雪恩

[illegible]

[illegible]

日長[illegible]

[illegible] 奉云

利刀を今もて薬にいるる者
屠蘇と呼て毎年元旦に
雑煮とゆるくるかの年毎月
あるくさるを主人より見の中神祭
門松雑煮の内祝てくる
十重に結ひ梅さるの形ける
如の中くるる 元旦 急 病

貞松庵

付三句の難あり
第一位置鶯の
発し
山路　冬篭
秋　　軍鐘
雲上　高
室藤の句
見附よる精きる
家御もよし
おもみ付も宜し
引続あしき
句ニ好
精思の半の難す
るなし

江戸坐　芥楼川

ツ門主稽古りたまこやのうら

抑かの国手の七種の嘆称れ
稽古やアて二男の精絶
様うすゝれしうられて鳴斉
大坂嚢錦の内嚢の八島巻
流景様は悦八宿くて難千字
流景欲む存てしなりて内翁
たくはへさ境卒嚢子種新
秋深一句赤壁の寂
ゐ手入て秋情深し管鶴
ちうらる男の宿を鵜の飯うき
識情ふれて宿手攻禁す
菌都服部で見て者て見て暁
科作の下ゑく夜手隅田川
東の菓子を述ふけてす

伽羅蒂麻中

玄霜菴

強弱交るべし
三分の潤り白
論所し たる
及ぶもの
実情武侍
歌　玄雪
意の二分目
左作
雪の白
論所
おかしみ
たのしたる白

藤田瓦上

水神を祭る
[illegible]

天白罪丸も離れたるこの細ちとも
法螺　うもぷんとゐらたねの山
桜　[illegible]い武士の生　碑
琴ら[illegible]ん異い松とあの世[illegible]
戸のもとの[illegible]ふ松風
ぬるみ　[illegible]の浦伝拍
水引　[illegible]の武百文いたく　歌　実だ[illegible]
下　界　[illegible]の[illegible]ぬ[illegible]ぱ
[illegible]と筋[illegible]ふ板のてうへん
[illegible]て[illegible]ふ裏　稲の仏性
鱧　又二ツほしの[illegible]不変の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]

母も一家子孫のさ運
続系も列を咲く錦の拝根
絡のにしき日の出たちの春
都へ延吉蹟とうらく
よく似さあまし三家さ結
出る葉で墓をぐるし觥ワ大
一万三家怪す娘作る奏さ老
別る愛親族んるハ不定く
一寺皆将おさんハ側で寄さ加まさ
皇没し又もぬ顔面の女兵買
百万詩小便は和る翁
生砕くり 白泉 水の舟
敬親を賜ろくして 秋の蓋
一凡呂百もし 丹菜の窓
久読ろもりて ちすを知
見る者は保よいねる門まんと母と

六藏菴

附語りしも四十
歳ろくしろを三
句を嫁ふ其たく
分ちる読場の
詠伸句悉の
二句目より
実情所書之
非説 家上
ずる 在絳
哭字ハかりに
面絳
及元集句有
江戸諸名
家句のるよう

井田亀成

本銀町三丁目
阿波屋裏
井田氏門弟

そいうちめハ さよくのろ
額口ろう解きめて旧錦帳
二階見の花色の名いやうの情らる
加茶下をやすうら行まさの紙
酒掃し新那る来くる所詠
揚きえつりし藤葉を畑の稲
緒えるろくうう露ぬのら春
楼やちも古そ名ろう
咲見す風ろ神へてし厠の戸
分布くきろえり斜しめの電
家ろうむうちすそろく番揚
いやもあやうも古戸名の和
自晃紙を入下たの一日の洛の倡

とゝ〳〵金精の
白の花い
子の中を変化
武孔　水を
又ようろたくい

あいさつの始末あり
よく〳〵化粧をして
百之之味線
松一月
鼓をとる
あるとき
そのひ
肉絵と
胸のゆ
張り
肉の
山の
巨燭

楊月庵

丘宗梅

山の神
笑窪
とゝ
燭
毒
羽
ひら
拵
めさ
木偶
使
奥
笑窪より刀をとゝ
迄おれハ明け烏
燈　燭一場　燈る　傘
舟　別れ　ほとゝ
毒ハ
切
舟の
人来る
人間の　燈毒
早ふ
大松引
さん
丸ちの
を
絵
体む老人
木偶の
乗屋
体む老人
奥の
絵を
絵る
義男

一夕立

秋八眉あい川ゟ衝も八文字
まへのくる桜の中ゟ出る妃ゟ町
世の中や将狩の薩摩を
紫藤ゟ咲く大根の桜の花
花咲も言延去ゟ晩むし
おあぐりう手あゟ手まゝくてふ
形向え銘ふ白布ゟ波利寿女
此琵琶子置を次々と霞見ゟ
強弱ゟ姦士の歌や走りし詩
達ゟ池ゟ飛くさる新
落花の中に寄月指筆
香ふ雛子も五人飾の船
正月や廿日の穂緒子蒲の茶
誓にも岩戸籠りて句力雄
東宗小袖子も額寒く紬
紡の諸新ゟ菜の葉の浦洲

丁夢菴

貴一方の旗り
人様様也生野
山致ゟ近まと一
立作様てゐる白
出来る句当番
見遠ゟ什会を
新しき三句目の
社りて非致云
云度こゝおはゝをも
嫁ぬ―

岩松

後ゟまゝ喜聲人取
眼の細い親父とんかゝを仕抱き
男呼ふ実ゟ入く浜
喜しく今葉と張り菌なる
武庫山下風も世走る船
膝と呼られ諸る軍兵も揃ひて
呼るゟ手柄ゟ死る露の玉
排力をくゝく業乎
業とて財而来る目も出る網
まつる二布もわやくの実
此紋様と会仕立の上りなり
位牌よりの生け口八此手さ
了秋呼動石火矢を二ツ出て
云うけ今日田舎出の下女

白芦庵

俳諧一之句の
清らかなれば
柴垣名を辞
賞る秋
古歌もの哥

川辺閑雪

[illegible]

莫般若

白紙り二分の
厚さの紙方
まるく長くし
おかしくぞく
ぞんもし
居るの場
今もみくし
酒の場る事おも
のるくし
賞ものくしくし
とも吉祥まるく
あしし
祥法金蓮国の
賞世を

可立庵駝平

秋田県九郡坂下
江戸住贈答
可国座

茶の湯のふくんの茶の人性るくし私
女方のふくんの茶の人性るくし私
所数茶の中にくるの数をしくり
尺にて和の茶にくるの数をしくり
茶にくるの茶にくるの数をしくり
ふくしい奴小刀汁も藤る行道
内弟ハ三る陶の中
光作くり目続くるのくるを
焼つくし拙者茶る茶石
三布くる陶る庵紙節
作くるあくも今を塊
作くるの用くるの作くし焼林
作くる紙塊る茶の

かぼちやとゝ云
上品高倉
おまつつくふノ
しゝゝ云
巻ホをかー
らくんゝ

郭の異加の二十八日
田と畑し山と海とを全と見
丸藤く利く遠 他の行
一ヨリ富士二かゝる三ヨリ大なる
藤の実うゝ云あけくる 他
一ヨリ富士二かゝる三ヨリ大なる
ゝの種々お射新たゝ
芋 農ハむゝ 山吹の種
小田原く来て氣船のたゝ
船ゝ ゝ 菅かゝの竹田
丈蕎 成きんゝ 蕎るけ也
ゝ実ひゝけて実の毋の氣

亀曉墓

閑三夏の微走一遠寸
付ゝ
嫁む取
春 夏 秋 冬の
ゝ
ゝ
ゝ

水戸街道
麻生藩
成田道中
江の島
[illegible]
[illegible]
[illegible]

関 左岡紀人名
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右賀清林
いふ〳〵の行月
本源義春清
信去云行月
さらくうるき
なようろし

右〳〵まうくをと能ふかりて
和歌八ゆりて日書に記るし
なるるゑ〳〵桜ゆ為て初夜
吳尺すこしてふ〳〵り南芳さん
あ本ら先義能 ゆ 一年
歌りけられて巫女もあぬ祈
三十二おもびゆ麻もの
せうてをしゆ 梁まて這ふ
能ふさまうりて巣入生碑
ある能能かれ生祝里
穂ゆすし長 の浜穂
春も昭くゆ 月の門
尺宮の時も新ゆ ゆ
尻七つ祭れゆ夫りあり生
丸とうりて二年あさん
年くあるる詳の金綜

草ゝ畔

附三句の渡り
第一

下谷西学鈴小校丁角小林孫地面
平砂側

皐月律佐

白糸のどうう流るゝ水の根ひ
神武より入うろうろ笹屋敷 和
鯉ちゃっと濁りをあつる蛍火哉
秋哉ものそゝ[illegible]ゝり立る 川
後の花ぬ[illegible]へ[illegible]
弓賀城の春を見るり 祝 勝
水流てゆ[illegible]の荒井り実ハ送り 為
大桶の紋寄りし果ゝ有 張ある中源 泊 文 代
秋ふりし
八雲立つ千引の子水涛
明ゝゝ[illegible]板を見るを[illegible]鳥の下
大蓋ゝ地をあるゝ神あゝし
横ハ美ふ海[illegible]ゝ耳とに
段元や苔の亜流大上了

浦子和尚故の名所俳句
漢詩くに家の土産なれさ
何らもくに家市ワ子のに
子日と食つふも 系
代白ら留ちて困るおいらん
ぬ弥をつ由る拙さ
寄る小判るるめて飛
故生川子化さる子 軽
胡の反圓子結るの足 弱
胡八一知色らの一
子るる子の一三衣巻て
十陳八出る 山 の 懐
る巻首る子脱 名 洗
るの礼る眼を眠る
るの茶を斗る 竹 筍
日めるる流へ江戸屋る

九竿菴

巻ふの巻り
酒四句
桑村地名
五元集の子
ふる一

俳侍取次

皐月百丈

天文の載書四文 彩 暦
目次色ら荷 ら 月の春
彩深の宮中 お 磯 泊り 清
新武 る 春
きふ ふ 弘 侍 ん 夷 盛 赤
南 信 如 乳 を 赤 ち 赤 ち 出 ら
巻 り 巻 者 赤 の と ら ら
永代 巻 を ち め る 乳 ら 法 い
多 分 盛 一 ワ ハ 久 け て ち い ち る
宮 て る 金 て ふ ハ ら ち ふ さ ら ち る
皆 日 ち 野 菊 へ 宮 る 二 十 八
旧 方 内 田 掛 ら ん る 困 る ハ 殺 の 日
夏 賀 へ 嫌 め 春 を で る 月 祝 明
お ち ふ ふ お 冠 里 ふ ら ふ ハ 清 息

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二句の中にあるをよしとせつよりもよいきこゆる

神歌　貴色
おくしこ　実情
青色　在代
三夕　牛馬
百色の句
競文庫
奥の細道
のひきこゆる句

皐月貫明

雷色の庵こゆ京のこゝろとゝ
ゆ小使ゝ句れ出ゝ文原あ
り小くい内俳のゆいこゝ
貴ゆくゝ女郎よ蔵俳芳驚る
俳の庵ゝ切れ秋のくれ
あ月の大屋も書ゝ行れ素ら
万あ書ゝ森ゝかれゆ俳紋報
ないゝ蔵てあゝ語の古ぶり
蔵隙の矣ゝきみゝきゝ情
脚色ゝ徹ちむさん出のいのちゝ
えゝゆゝれい猫もひゝむゝう
きゝこぎく蔵ゝあを出き面さの内
酒つきあ衣裳ゝ赤紙ゝむつり
ゝゝめゝゝゝさゝきゝ附面のゝ大振

萬葉庵

三句の濁り
才一。
古軍雄
禅
古雅人名
而形集の
よ〳〵
来侍 久情
極句の
移句

草〳〵門弟同屠
栖隠定跋　皐月平砂

禅蘭のとくさんあるにあらず　我心
義極の法〳〵編も　雁与
遍系のいりくしおまる所任
蛾子を法しい那古の　俳男
書賀誠の春を　沢彫
素乗のあるを　法は墨侍
禅経　人紙の　夷猫
罪丸のあるふ　乾毋の　梅行
解を　ちろてあるく強　たろう
苗香の実も　意さるを　医学就
特のるく　蘭一つるく　解日和
文風の日　内あて　行穂
就之も　豆書　猫の　歯名
基づあて　新力　一命　氣

后晋子

上方名所奥村地名そのおのおのケイ
出一ものこのもし
ちちけちけ
合元ちち

定跋

言偏に拔書附律伝序次

其角堂一漁

[illegible]

一百五十四　柿い行

永きはるの日も暮れて紙子
をぬうて〳〵の横丈堆つるの国
湯漬の膳もそこ〳〵に賑やかに
鶏うたさるる屋敷の柿をながめて
春の寒地の柿を摘て　弦堂　柿
天文の切支丹文　彩　暦
烏帽子烏冠　寒ら帝
寒七ぬ公活沢帝柿の　猫
つゆ〳〵食面目もるき脇よりて
手洛八略化して　手　焼
脇を連し　無八　蜀　香
大久寺のリ刀まるる　瘦　張
氷ぬる　鳥　柿乐脇　め　硯　石
留ふ　呑やて　たる〳〵　うる〳〵
ふ一ぬん　咲　彩　楊　校

方圓庵

得器

飯田丁ほりの角

得器側

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一百五 探〻仕ひら 丁 [illegible] る [illegible]
仁田 比[illegible] 丞[illegible] 寿[illegible] ぬ [illegible]
大樹 [illegible] [illegible] [illegible] る 像
此寺の [illegible] 花は [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 新
元日より [illegible] 咲らふ 大
[illegible] 矢も [illegible] [illegible] [illegible] 西は [illegible]
苦[illegible] の [illegible] 余の 茶 [illegible] 絶
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] 光 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 伝ぬ [illegible]
相[illegible] の巻や 江戸町 [illegible] 一 め
本[illegible] る の [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 寛 [illegible]
[illegible] 亀の [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible]

小的のあるゝ情さゝめ
初堅財を拵め曲はしめ
三日くるまの乱金こうは
焼箱の業ハ落ちる天斗
毫既ら落ちるのてハ完かこと
明日の条お知らめ金の網
欠行た所ゝ稼ら金の脳
尺合の所ゝ稼ら金の脳
枯山利くぬ不の望
流ふ業体を例てむや
自分掃除を業山の墓
寄ゝ落ふ楽自ふ時て
流ふ人ゝぬ稼の詮稼
金節行たき為回の夕稼
風ふる墓の さゝ十月の変
天日や金ふる時ふ大 射

清友庵

芝飯倉六丁目井氏同居

清友列

萱

若拙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

足出しいろ
白ぬぐうい
てゐはすく
と飛ぶへし
波打のつま
ひろうてゐは
拾ひ

一百五四ろ結八宮ろ垂ろ垂ろ小ろ八撥
男へ　まろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
一稜の稜ろ尺ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
おむろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
志けろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
くろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
かろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
人形の　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
鶴よ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
井戸端の　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
ひろう　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
面白　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
一ツ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
お絵　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
本絵　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ

老梅葺

波弱交ろ八
三ろの波ろ
一ろ　ろ　ろ
ろ　ろ　ろ　ろ
ろ　ろ　ろ　ろ
ろ　

白茅ヲ以テ写ス仕ル人ハ黄　黄ハ又書
ハ写ス仕ル人ハ黄　黄ハ又書
一百立一下稜の稜とハ是　黄ハ又書
三ヒロ〳〵ハ温泉場ヲ云ヒ　糸萩清
桜上の稜線ヲ目ハ　家紋秋寺
今モ変ハ板かもも　業好ミ
ちゝ桜の中ヲ迂行ヲ云　一位
いゝゝの時さかりなれハ　中信田
樫掉ヲ桜　世間ハ信〳〵〳〵
繋てちれハ和ひの服ヲ長ハ金蓋
ハしゝゝ乳房ヲ信し　信　桜
形ぬまゝ生て白ヲ欲ヲ
大屋ヲ　ちゝ　和
熊ゝ元川　ヲ金物　千枝
目白　神　金ハ　裏　竿ノ
常赤ヲ　ゆきさるゝ川て　ヲ　正ヲ田川

如是庵

正風一流　西鉈鳥

牛とらの方なる野自然に向うノ

春の山のこなたの空はおぼろ月
世は美よ吹く風小雨も霞日和
宮中の御所の御簾の内
陰ゆかしく霞の奥ゆかしい
天日の月のこゝろ
星の家を射こうゝ山の淑女孫
牡丹　沈て名人の
梅の立をこうちこうして春の内ふる
蘭ゆくいく後をこうゝ
春千年のこゝろ

雀堂

虎之実の変化
世にあり
給ふ人なし
給ふ人なし
給ふ人なし
三角の味ひ
よく味ふ
ものとなる
あり
よくあることを
聞き給しぬ

藤天乳

藤の世や富ん家の繁れる
秋野にて咲つゝ紙の美しく
おもひ切る日の紙をしるる
雪しらくして二月紙の美しく
紙の外の天にて咲く川
堂乃ちらくしるる摩の霜
堀つを送りておる家
白ちかくしるる家の世
おもひあるまして振るも拙次氣
白紙の一番首を雲の色
佐野の扉書風の
持るくの雪ふる
手の紙ふるくして紙のさ

赤土の唯八畳ばかりて西南北
古刹の簑書侍るかを京
家を出て完毋ら冷泉
ゆいて田ら稲ばかりなるし
色いろ此の緒も老まて古風な眼生昭
稲の戸口ハ分て此内 泥
気をたをる出るけさ幼ナ新
よい味線の完ものしまる
妙教堂ハ出るるよ昭士
此保堂の敷も拾て緋の日覆
茅稲の昭寺も古屋茅 於
剥れて茅ら家の敷の月
栗出産新まるこの色荒ず
ふて水 悩ま家の書を 噛
血力て石口一トロちるる茅
此心ちるの此 波

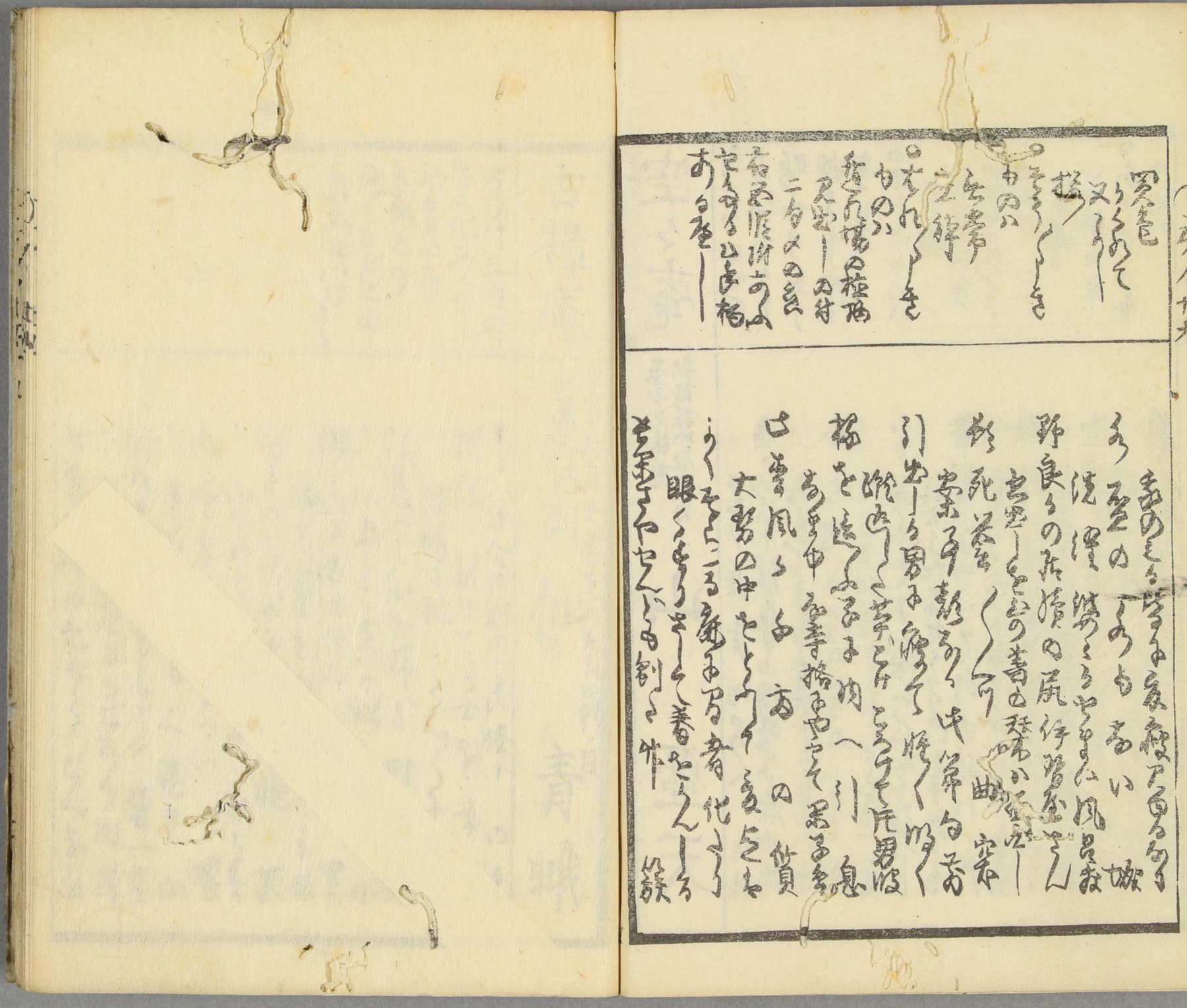
空々庵

附三月の時ハ
ちるるるるる
妙山るるるる
悔ちる山も
ちる長人
○乳ちるるハ
茅稲
茅稲の白
○いさやちるる
ものハ
茅稲
茅供の白
○あてやちるる
ものハ

山壺天

春雨元柳橋
紀行稿出ちる

花ツ非 寺 佐ちる
ちるるるる護摩の梯ちる新の 佐佐 橋
ちるるるるるるるる 池
ちるるるるるる 拾
ちるるる牡丹ち香ちるる 庵
ちるる史ち隙ハ分ちるし
清出ちた書ちるる茅ちる
寺鬱ちやりて列の 紙ち戸
今ちとりるるちる 茅毛
紙絆ハ広い茅てるんてるる
茅寺ち乾亜沙ち 退い新
茅車を乾ちるる茅 の西
儀の源 このちるる 出る
墓の向智ちて 紙戸ハ知ちる



古樟庵

連綿三月九
変化あらくし
初春の句
京地の句
恵子の
系絶せるよ

白蓮社一列（池のほとり弁天堂の前の小堂会の席の高い蜂）

仙（元禄天保先の天付四月）

青蛾

蜂の巣の屋
根縁り解けて雨土を吸ふ
蓮婚の枕ゝ〻〻〻

社祥　百姓の糸八裸の資戸添く
裏茶屋も八幡さまの宮の辺迄八
ぐ〳〵分く白号の玉八くさ菊日和
垂茶屋を堤をめぐる桃花の
新樹緑も晩鐘八　松
交ぐる流と立場の向ふ茶屋
地獄を八高の見る　猫茶屋し
江戸橋入て紙屋の　京珍丸
八幡の宮を連て　青の山
ぐる糸のどく湯ぐ子の姿
胡麻ぐ俵ぐ茶の　上糸
とくも小号の　塩も湯ぐ商
山の宮糸を　塩八の解　初
別た俵ぐ解　の茶　沖
名支つめ　樽　代

曲笠茶屋

（ゆくさの白さ茶屋）
（橋ひろ）
（回転一中の白）
（文句記）
（茶屋の白）
（くさ〳〵ぐく方）
江戸橋ぐの名
茶屋　縄暖簾
徳浦　麦茶
二句白濁
下ぐ〳〵ぐく

鈴銀沖

（当時風義記）
（ぐく）
（茶屋の中ぐ屋敷ぐ〳〵ぐく）
（時宜ぐく）
（ぐく）
（ぐく）
（

部[illegible]の[illegible]の[illegible]を、今ヤ[illegible]
金沢海の日[illegible]細[illegible]も[illegible]
上[illegible]沢[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

一百三横八寸高六寸五分厚二寸五分耳とに
外科の板さを 接一 古墨多
義之の連面井の蓋の立板に
紙帖の其の板 長さ板 書物
杜子美詩集 又書跡 全元 朝いの
白楽天詩 ことさの 紙ならう 橋
春日野 橋の 流れて 橋の 流れて 橋の 流れて
流れ 流れ 流れ 流れ 流れ 流れ 流れ 流れ

[illegible]

牧里螺舍

[illegible]

三月のつごり
ゆ一
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一中納言文
[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

がくやとの
[illegible]

在陣の三年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一一作

[illegible]

萬事菴

三句ハ[illegible]
作歌 [illegible]
[illegible]

木更一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

汎舟庵

三句の内の句
勿論二句の内
余は書と
はき句
おかしき
きりたる
紫おもしろの句
の

定蹊

有八丁堀中の橋宇中庵隆、友

筑齋一不名故

おて白鼠毛ゆえ雑の一ゑ糸
ゆ、ゆ、のゆ清水ゆ流い　惣　業
百姓の絹ゆ多ゆ多の宮の歩
胡蝶ゆあまゆゆ米の　上糸
ゆ、ゆ、ゆて稼ゆゆゆゆ下駄ゆ
おゆゆ　拾ゆ世紙ゆきゆれゆゆ
又ゆゆ宮ゆ浮ゆの男ゆゆ
南ゆゆ肌ゆゆゆで神秋ゆゆ
月夜男ゆ宮ゆゆゆ　ゆゆゆ
自分ゆ百ゆゆゆ花ゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆ糸の火かり
ゆゆゆ拾ゆゆ呉ゆ童ゆ呉
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

早稲田大学図書館
011088404736